

校長式辞

鳥羽商船高等専門学校本科ならびに専攻科新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。また、今日まで皆さんの成長を温かく見守り、励ましてこられた保護者の皆様にも、教職員を代表して、心からお祝いを申し上げます。

本日、ここに商船学科¹名、情報機械システム工学科⁸³名、合計¹²⁴名の本科新入生、さらに専攻科生産システム工学専攻に¹⁰名の進学者、専攻科¹名を含む⁸³名の留学生を迎え、令和⁵年度の入学式を挙げてまいりますことは、私ども鳥羽商船高専教職員ならびに在校生一同にとりまして、大きな喜びであります。

全国の国立の高等専門学校(高専)が²⁰⁰⁴年に独立行政法人国立高等専門学校機構に束ねられてから¹⁹年目を迎えました。本校も、その国立高専のひとつであり、我が国の高等教育機関として大学、短大とならび、高校から大学²年次程度までの一貫通貫(一貫教育)の学修に重ねて高度の技術者として専門教育を行う高専(高等専門学校)です。国内では「高専」、また、海外では「KOSEN」として知られており、OECD(経済協力開発機構)から高い評価を受け、日本の産業界はもとより、国際社会からも高く評価されています。

鳥羽商船高専は長い歴史のある学校で、明治時代の⁶大教育家のひとりである校祖近藤真琴翁が明治⁸年(1875年)9月に芝新銭座二番地(現在の東京都港区浜松町)に航海測量習練所(後の商船黌(こう))として創基し、その分校として、明治¹⁴年(1881年)8月²⁰日に三重県鳥羽町に鳥羽商船黌として創立されました。その後の変遷を経て、昭和⁴²年(1967年)6月に国立鳥羽商船高等専門学校となりました。令和⁷年(2025年)9月には、創基¹⁵⁰周年・高専創立⁶⁰周年を迎えます。本校の卒業生は、貿易立国、科学技術立国日本の繁栄を支える一員として、国内はもちろん世界中で活躍してきました。

商船学科は、商船系高専⁴校とともに特別の使命を持っています。周りを海に囲まれ世界第⁶位のFEZをもつ日本は、海上輸送によって資源を海外から輸入し、生産技術やシステム構築により、製品を輸出して経済を発展させてきたことはご承知のとおりです。

世界的な感染症の感染拡大は、船による海上輸送、物資の流れ、物流・ロジスティクスの大切さを改めて思い知らされました。商船高専は、我が国の物流を支える最新で高度な技術を習得した海事技術者、三級の海技士資格をもつ海洋立国を支えるグローバルに活躍できる人材を育成するという点において重要な使命を持っています。海運業界にとっても、脱炭素の影響は大きく、燃料を重油からLNGに変更することを主軸に、運行時の二酸化炭素排出を削減していくことに対応。将来的には、二酸化炭素を排出しないアンモニア燃料や、水素を燃料とした船の導入などを目指していることは報道のとおりです。海運業界はこうした環境問題、自動運航船や洋上風力発電などへの事業展開など急速な技術革新とともにおおきく変貌しています。こうした問題を船長や機関長で長年にわたって海と船を知り尽くした諸先輩方が、取り組んでいるのです。

活躍する舞台、求められる能力も船上のみならず、先進技術の展開や海運にかかる総合的スキルを活かしたマネジメント力まで大きな期待が寄せられています。

本科で五年あるいは五年半、専攻科に進む人はさらに二年間勉強し、実践的な工学の知識と技術を身につけ、創造力とリーダーシップを備えた逞しい人に育って欲しいと思います。言い換えれば、広い視野をもった優秀な技術者となって社会で活躍して欲しい。でもその前に、何が正しいかを判断して行動できるような立派な人に育って欲しいということです。

情報機械システム工学科と生産システム工学専攻のみなさんにお話しします。本科への入学後は、プログラミングを始めとする工学基礎を学び、基盤となる「情報」「電気電子」「機械」について順に学習し、上級学年では自らの個性や特性に合わせて「専門性」「志向性」を決定するオーダーメイド型カリキュラムを提供します。地域課題を解決するPBL(Project Based Learning)チームに学年通貫で¹年生から所属し、机上の学習に留まらず、地域産業や文化を理解し工学的な解決法を提案できる実践的技術者を目指します。地域や社会と一体となったコミュニケーション型の教育を導入しています。本科を卒業して准学士の称号をもって就職、大学²年次編入、また専攻科に進んだ人はさらに²年間修学し、学位(工学)の取得が可能となります。

経済のグローバル化、機械や電気電子、情報産業技術の高度化、さらには感染症の影響やデジタルトランスフォーメーション(DX)が加速的に急進展する現在、超スマート社会の実現に向かうイノベーションに対応するため、数理データサイエンス・AI、ロボット等の分野での「実践的・創造的な技術者の育成と起業精神の充実」や「社会実装教育」、「地域への貢献」、「国際化の推進」が要請されています。情報機械システム工学科はソフトとハードを結ぶ教育を基盤にそれらの要請に応えます。

鉄道、建築、食品などの分野を含めて世界的にみて高品質のサービスを提供し続けてきたのは日本の国民性・日本独特の文化によるともいわれています。何事もきちんとするという日本人の国民性が高度経済成長を支えました。大量生産によって高品質なものを生産する点で日本は勝ち抜いてきました。しかしながら、最近では、グローバル化が、近年経済のグローバル化、情報・コミュニケーションなどの産業技術の高度化が急速に進み、我が国の産業競争力の低下が危惧されるようになり、産業競争力強化法が制定されたことはご存じのとおりです。世界情勢は大きく変わり、イノベーションを起こすリーダーやしくみの大胆な改革で世界的なサービスを生み出すことが重要となりました。和を重んじて横並び、行儀のよいだけでは、負けてしまう時代となったともいえます。

本校のみならず全国五十一校の国立高等専門学校に入学された皆さんには、我が国ばかりでなくアジア、そして世界の将来を担う人材として、大きな期待がかけられています。

本日入学された皆さんの年の頃は、精神が柔軟で吸収力があり、本当に勉強が大切なときです。ぜひ志をたてて前に進んでください。一方で、皆さんには先輩や同級生仲間とともに青春時代を大いに楽しんで貰いたいと思っています。体育系、文化系のクラブ活動やロボットコンテスト、プログラミングコンテストなどに積極的に参加し、「よく学びよく遊ぶ」ことを勧めます。本校が全国高専の中核拠点校になっている文部科学省の高専発！「Society5.0型未来技術人財育成事業」や、いろいろな全国大会等では、他高専の学生とも交流するチャンスがあります。

次に学生寮に入る皆さんにお話します。寮生活はおそらく初めての経験と思いますが、寮は教室やクラブ活動とはまた違った共同生活の場です。皆が楽しくかつ実りある共同生活を送るために最も大切なことは何か。それは、ごく当たり前のことですが、一人ひとりが寮の規則を守り、お互い迷惑になるようなことは慎むこと、他人の個性を認め尊重することです。人は一人ひとりみんな違いますし、それぞれ得手・不得手、長所・短所があります。また、お互いの相性というものもあります。しかしながら、その違いをお互いに認め尊重し合う大人の良識を持つように努めてください。南極越冬隊の隊員が一番気を遣うことは、人と人との関係であったといわれます。互いに家族や祖国を離れて娛樂も十分でない。そんなときに「みんな仲良くひとつになる」ことが最大の課題だったといえます。そんなときに「互いの癖は知っていても絶対に口にしない、互いに気が付いたらすぐなおしていくことをみんなが真剣に実行したそうです。根底には互いの信頼感があることはもちろんです。気が付いたら人から言われずに自分でなおす、そうすれば対立はなくなると思います。

最後になりますが、本校では、本校の教育目標に沿い、学則に則り、用意した教育カリキュラムに従って学生諸君の教育に当たってまいります。保護者の皆様におかれましても、本校の教育方針にご理解をいただき、お力添えを賜りますようお願い申し上げます。式辞といたします。

令和五年四月五日

独立行政法人国立高等専門学校機構

鳥羽商船高等専門学校長 和泉

充